第 58 回 東北農業経済学会

新潟大会 シンポジウム資料

(2022年8月27日)

テーマ「農業支援人材の育成課題」

座長解題 伊藤亮司 (新潟大学)・青山浩子 (新潟食料農業大学)

報告1 新潟県における地域農業の課題に対応した普及活動の展開

新潟県農林水産部経営普及課長 石田正雄

報告2 事例報告:普及指導員の活動と役割から考える人材育成

大阪府南河内農と緑の総合事務所 農の普及課 林兵弥

報告3 中越地域における災害復興・中間組織人材の育成・定着・継承課題

にいがたイナカレッジ 阿部 巧

報告4 農業者として6次産業事業者として、また6次産業プランナーとしての想い

農カフェきらら 新谷梨恵子

昼休憩(12:20~13:30)

討論者1 人材育成論の立場から:学術的な論点整理とその現場適用課題

上田賢悦 (秋田県立大学)

討論者2 地域農業論の立場から:多様な担い手をどう確保するか

荒井聡 (福島大学)

討論者3 地域食品産業論の立場から:農業界との(水と油)をどうするか

百合岡雅博(長岡大学)

総合討論(14:20~15:40)

座長まとめ 伊藤亮司 (新潟大学)

農業支援人材の育成課題

伊藤亮司 (新潟大学)・青山浩子 (新潟食料農業大学)

農業を取り巻く各機関・各組織において農業者をサポートし、農業振興に携わる指導者(ここでは農業支援人材と呼ぶ)には、①県の普及指導員(一部の市に配置される農業技師等専門職を含む)、②農協の営農指導員等の農業団体の指導員、③ムラづくり・地域おこし・6 次産業化支援等に携わる(中間支援組織などの)地域サポート人材、④その他いわゆる金融機関・コンサル・NPO などを含めた民間団体を挙げることができよう。このうち①②は既存の支援組織・支援人材、③④はどちらかというと新たなタイプと整理しても良いかもしれない。

新たな時代的要請に対応しうる多様な農業支援人材をどのように育成し、それらを東ね、地域農業の振興に資するネットワークをどのように構築するのか。現場に横たわる課題を明らかにし、①そもそも地域農業現場における支援ニーズ、②既存組織における支援ニーズへの対応状況および今後求められる支援者像、③支援人材の育成手法、技能・技術の継承・組織的蓄積についての課題、④新たな組織における人材の導入・定着の課題および既存組織とは異なる新たな機能や可能性、⑤既存の組織間あるいは新たな組織を含めた支援機関・支援人材間の連携可能性とそのために必要となる技能・能力の開発課題、⑥互いが互いをどう見ているか、それぞれの個性を活かしつつ地域農業の背中を押すための体制整備についての展望を論じたい。

普及指導への期待はますます強まるだろう。単純な技術解説はインターネット時代には一定水準の情報は検索ボタンひとつで得られる時代ではあるが、だからこそ、その先の高度な技術・対面ならではの人間関係を基にしたヒトとヒトを繋ぐ技能が光を放つだろう。

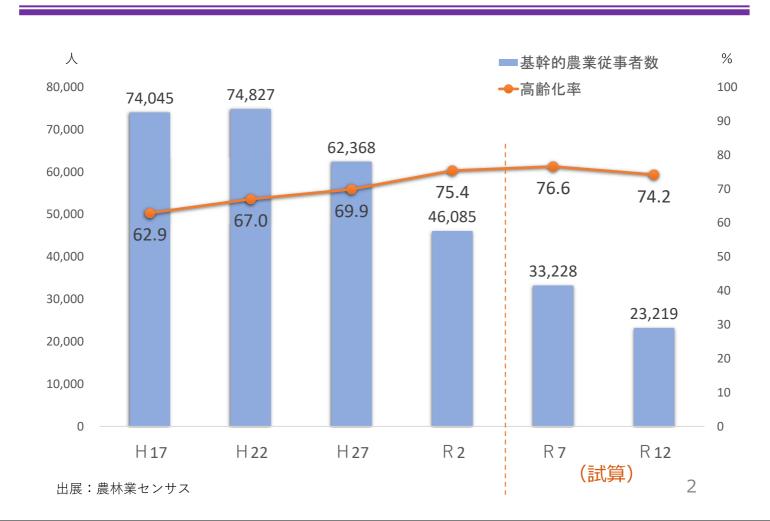
東北・新潟においては、農村は高齢化・疲弊し、その支援は待ったなしである。また、厳しい状況が早期に先鋭的に表れるのが被災地域であるとも考える。そこでは県の普及指導員や農協、市町村の担当者、農業委員など(個々の担当者が)が踏ん張っていることは確かだろうが、それらが市町村合併や財政難の中で現場から遠ざかり、マンパワーも不足しがちな局面となっている。他方で、農業・農村を取り巻く社会環境の変化や農業生産者の多様化(零細家族濃から大規模法人層まで・稲作単作型から複合農業、更には6次産業化まで)の下で、支援すべき対象は拡大し、支援内容・支援ニーズの幅は多岐にわたる。特に、東北・新潟では、水田農業の高度化・園芸振興を新たに図る必要があり、また6次産業化の拡大・安定化も課題である。従来の支援水準の維持でさえ手一杯のところに、新たな地域農業再編・新たな業務構築を視野においた普及指導が求められる状況である。

そのため、既存組織だけでは叶わない地域課題へのアプローチのためには、地域において各機関・各農業者の仲立ちをする中間支援組織が必要になり、災害復興も含めて、その導入・定着が図られてきた。ただし、それら中間支援組織・中間人材は財政面・経営面では安定性を欠き、農業・農村の担い手がいよいよ高齢化し、サポートの拡充が必要になるなかで、事態はむしろ逆に進むジレンマも存在する。地域に寄り添い続けられる支援体制をどのように構築するのか。これら NPO 等のネットワーク型中間支援組織が関わる農業振興・6次化と既存組織との接点、彼らと接点を結べる普及指導員・営農指導員のセンス・力量とはどのようなものだろうか。各農業支援組織のあり方・支援人材のあり方について、現場から学びつつ、現場の皆さんが自信とプライドを改めて再確認できるよう、学会としての応援歌を企図した議論を図りたい。

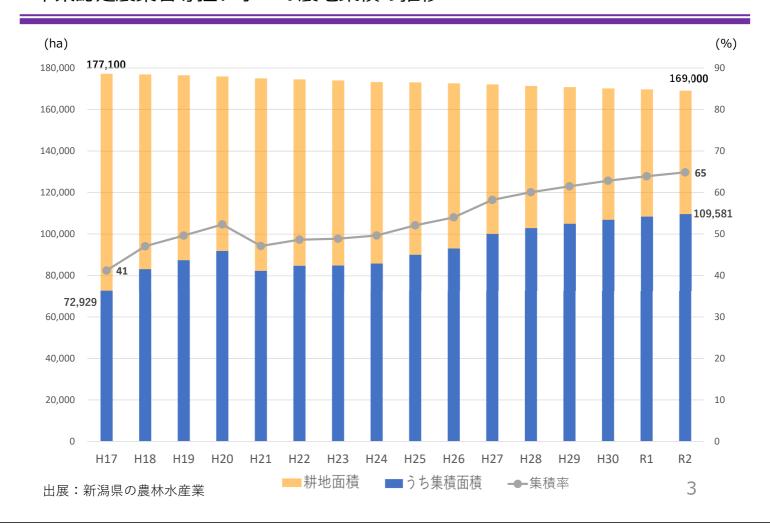
新潟県における地域農業の課題に 対応した普及活動の展開

令和4年8月27日 新潟県農林水産部経営普及課

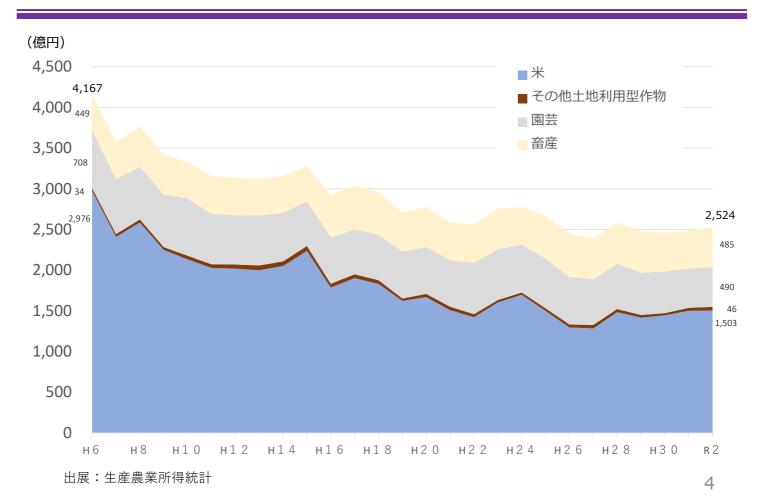
本県基幹的農業従事者数の推移



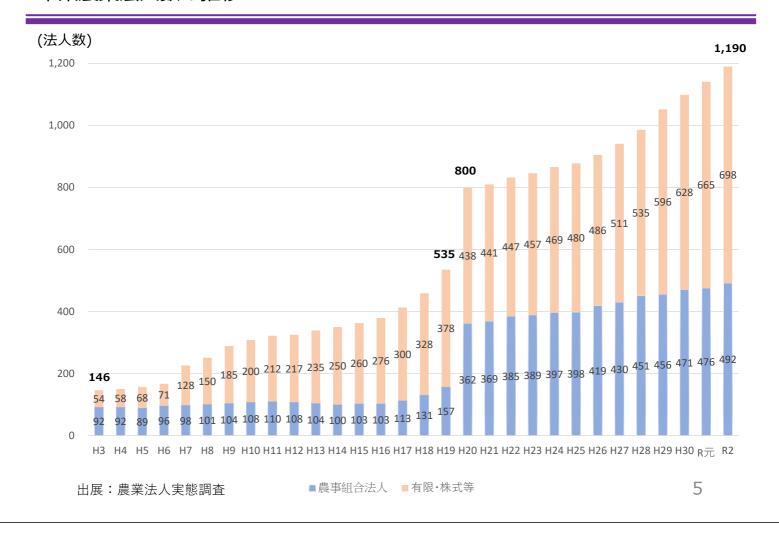
本県認定農業者等担い手への農地集積の推移



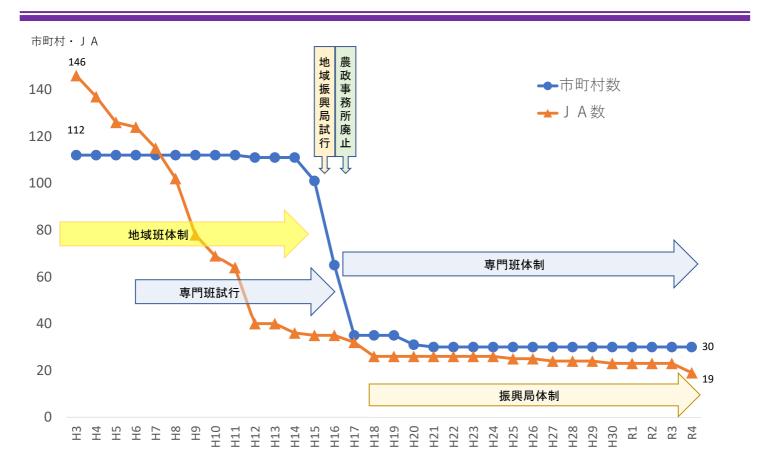
本県農業産出額

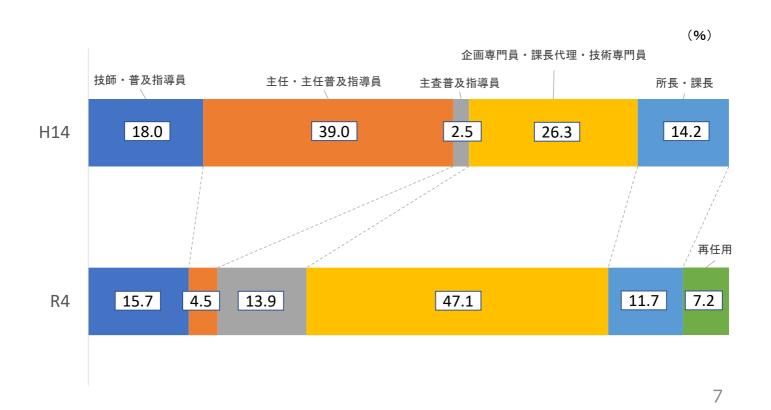


本県農業法人数の推移



本県普及指導体制等の推移





本県農業施策の展開方向 ~生産対策と構造対策を両輪(一体)として展開~



令和3年度

1 園芸1億円産地の育成 2 ビレッジプラン

令和4年度

- 1 園芸1億円産地の育成
- 2 ビレッジプラン
- 3 安定的な地域農業構造の確立 (集約化、法人連携等)

重 点

般

仕組みづくり

人づくり

ものづくり

農林水産業を担う人材の確保・育成

担い手が将来展望を持って経営できる 農業の展開

中山間地域農業の維持と農山漁村の 多面的機能の発揮

9

新潟県園芸振興基本戦略

~園芸導入・拡大にチャレンジする農業者や産地を関係機関・団体が一体となり、伴走型で支援~

基本的な考え方

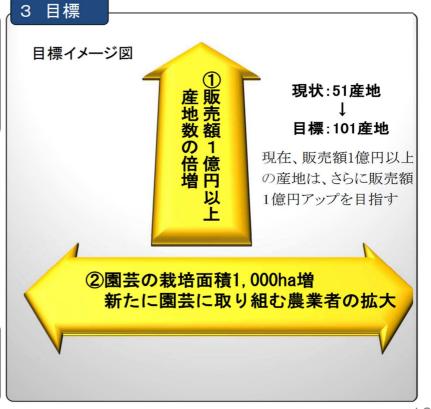
園芸の機械化や施設化、農地の汎 用化などを積極的に推進して生産効 率の高い産地を育成し、園芸生産の 拡大を図る。

2 本県園芸生産の目指す姿

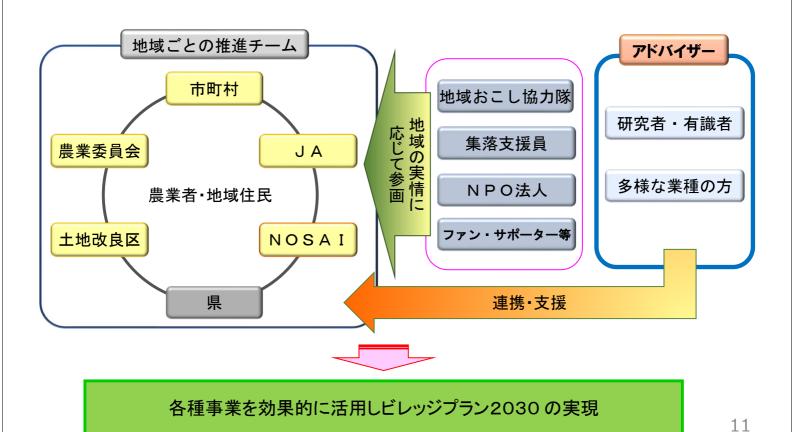
本県の強みである米に加え、園芸 生産の取組が拡大して儲かる農業を 実現することで、農業者の所得が向 上し農業が成長産業となっていく姿 を目指す。

4 推進期間

令和元年(2019年) ~令和6年(2024年)

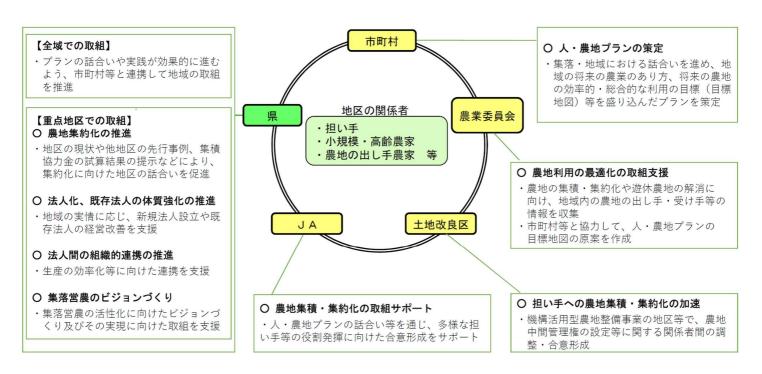


~地域の主体づくりをコーディネートする人材の養成や将来プランの策定及び実現に向けた支援~



安定的な地域農業構造の確立(集約化、法人連携等)

~農地の集約化による営農の効率化など、地域農業の維持・発展につながる担い手の経営基盤強化を推進~



- ◆ 農業の働き方改革
 - ~ 3 K「キツい・汚い・危険」から新3 K「稼げる・カッコいい・感動する」へ ~
 - ▶ DXの推進
 - ・生産部門のみならず経営管理部門における省力化、効率化
 - ▶ GAPの推進
 - ・労働安全のほか、業務手順やルールの見える化
 - ▶ 農福連携の推進
 - ・障がいのある方を含め、誰もが働きやすい就業環境の整備
- ◆ 持続可能な農業の実現
 - ~ 農業に由来する環境への負荷低減と農業及び食品産業の持続的な発展 ~
 - ▶ みどりの食料システム戦略
 - ・環境と調和のとれた食料システムの確立(有機農業、化学肥料・化学合成農薬の削減)
 - ▶ 脱炭素社会の実現
 - ・温室効果ガス削減(長期中干し・秋耕)や炭素の農地土壌吸収(耕畜連携)
 - > SDGs
 - ・農業・食品産業はその活動を自然資本や環境に立脚(ゴールの土台)
- ◆ 消費者からの理解等
 - ~ 持続可能な農業の実現には、農業者、関係機関団体だけでなく消費者を含めた国民 の理解と協力 ~
 - > 理解促進
 - ・情報提供や農村体験等を通じた環境保全や食生活等に対する理解促進
 - ▶ 消費者から求められる食の提供
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、消費動向や生活スタイルの変化、田園回帰や地方分散の動き を踏まえた農業生産

今後の普及活動 ~ 農業の持続的発展に向けた、様々な農政課題への的確な対応 ~

- ◆ 普及手法・ノウハウの伝承
 - ~ ベテラン普及指導員の持つノウハウの若手普及指導員へ確実な伝承 ~
 - ➢ OJT
 - ・1~2年次の普及職員にトレーナーを設定。ビレッジプラン等の活動で若手職員にも役割を付与
 - ▶ 情報共有・見える化
 - ・現場の課題解決の事例など普及活動の成果を取りまとめて全普及指導センターで共有
 - ▶ 研修の映像化
 - ・農業革新支援担当が普及指導員に対して行う研修を撮影し復習や普及指導センター内での研修に活用
- ◆ 効率的、効果的な普及活動
 - ~ 普及活動のDX ~
 - > 多様な手段を活用した情報発信
 - ・LINEを活用した情報の提供や共有、YouTube等を活用した技術情報の映像配信
 - ▶ 生育データ収集・分析の簡素化、迅速化
 - ・画像解析システム等を活用した生育状況のデータ化
 - ▶ 各種技術情報のデータ化
 - ・技術情報や研修資料等のデータ化・体系化による情報共有
- ◆ 多様な組織との連携
 - ~ 農業の枠を越えた、様々な組織との連携 ~
 - ▶ コーディネート機能の強化
 - ・市町村、JAのほか、地域づくり支援組織、社会福祉協議会等と連携し、農村を支える新たな動きや 活力を創出
 - 多様な業種・団体等との新たな関係構築
 - ・更なる情報発信力の強化を通じ、業界を越えた様々な人との関係を構築し協働を実現

13

14

普及指導員の活動と役割から 考える人材育成

大阪府南河内農と緑の総合事務所 農の普及課 林 兵弥

はじめに <普及指導員とは>

農業改良助長法 (昭和23年法律第165号)

第一条 この法律は、農業者が農業経営及び農村生活に関する有益かつ実用的な知識を得、これを普及交換することができるようにするため、(中略)能率的で環境と調和のとれた農法の発達、効率的かつ安定的な農業経営の育成及び地域の特性に即した農業の振興を図り、あわせて農村生活の改善に資することを目的とする。

第八条 第一項 都道府県は、(中略)普及指導員を置く。

第二項 普及指導員は、次に掲げる事務を行う。

第二号 巡回指導、相談、農場展示、講習会の開催その他の手段により、

直接農業者に接して、農業生産方式の合理化その他農業経営の改善又は 農村生活の改善に関する科学的技術及び知識の普及指導を行うこと。

「普及活動」

「考える農民の育成」 「行動する人材への支援」

(日本農業普及学会) 『協働』

人材育成の課題

若手普及指導員が普及方法を身につける

くこれまで>

ベテラン普及指導員 若手普及指導員

経験知 実務を通じて

<今後>

普及方法の理論化・体系化 若手普及指導員

普及指導員の立場

<農家女性グループに対する普及活動>

農家女性Gとして大阪府内初の法人

農産物加工・販売、食育活動

新商品開発、法人化、経営改善等を支援

→ <課題>経営状態の悪化:不採算商品

普及指導員の視点(第1の視点)

<第三者の視点>

客観的で合理的な判断

- ・採算の合わない商品の製造は中止すべき
- **■** この意見を採用すれば解決するはず

普及指導員の視点(第2の視点)

<農業者の視点>

農業者の商品に対する思い入れ

・この商品は地元特産品を食べてもらいたくて 試行錯誤を重ねて開発したものなのに //



普及指導員の視点

くジレンマ>

部外者的に上からの視点でものを言えば、信頼を失う。 「この普及員さんは、私たちの気持ちをわかってくれない。」

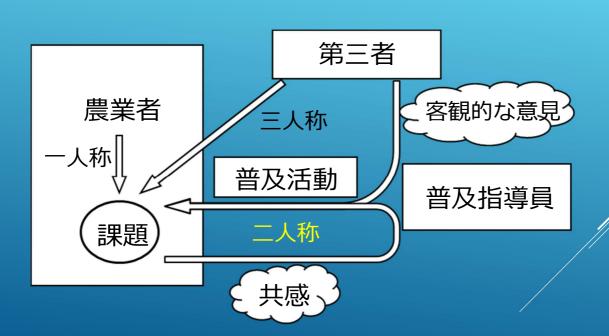
農業者の気持ちに共感しているだけでは、問題を解決する ことはできない。

普及指導員の視点(第3の視点)

く農業者と向き合う普及指導員の視点>

農業者の気持ち「一人称の視点」と 第三者の意見「三人称の視点」を融合させた 普及指導員の視点「二人称の視点」が必要 (農業者と普及指導員の共感が前提)

普及指導員の三つの視点



普及指導員の視点

<三つの視点を身につけるには>

「三人称の視点」:観察力、栽培・経営に関する知識・技術

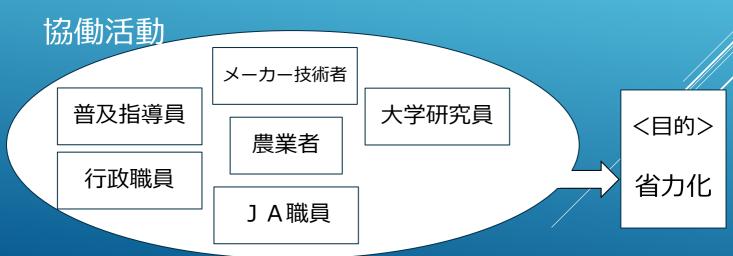
「一人称の視点」:農業者の話を聞き、対話する

「二人称の視点」:容易に身につけることができない

課題

普及指導員の役割

<スマート農業機器の導入に関する普及活動>



普及指導員の役割

<利害の対立> = 主導権争い(自分こそが農業者の立場)

「<u>省力化のため</u>「この価格で機械を

この機械を

導入すべき」

購入すれば 資金繰りが悪化する*/*

<フューチャー・デザイン(FD)>

現世代が「未来の子どもたちのためなら 喜んで我慢する」ような社会の仕組みを デザインする

「仮想将来世代」= 当事者ではない人間 (現世代)が仮想的に 将来世代を代弁する

普及指導員の役割

「省力化のため機械を導入すべき」 (客観的な第三者の意見 = 三人称の視点)



「省力化はしたいが、できるだけ経費を かけたくない」

(主観的な農業者の意見 = 一人称の視点)

普及指導員の役割

「将来あるべき姿」 (三人称の視点)

+

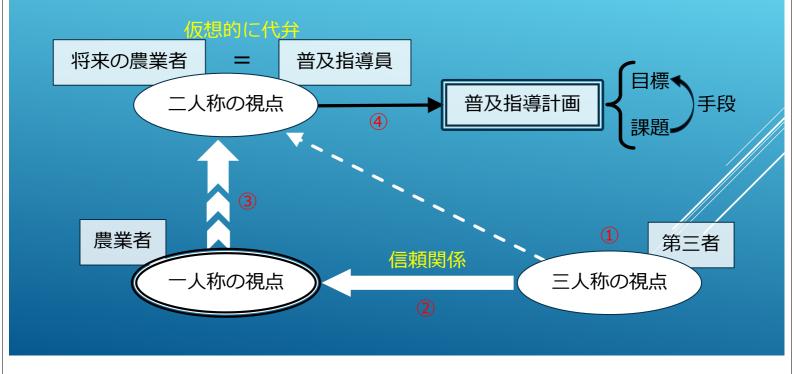
「現状の問題点」(一人称の視点)

農業者、協働者 双方から解決の糸口を導く

(仮想将来世代の代弁者 = 二人称の視点)

将来の農業者になったつもり、現在の農業者の利害から離れる

普及指導員の育成



にいがたる。カレッジ

中越地域における災害復興・中間組織人材の育成・定着・継承課題 ーイナカレッジ、アグリパスの取り組みから—

目次



- 1. イナカレッジの紹介
- 2. 担い手定着の実態(仕事づくり)について
- 3. 農村暮らし支援プログラムアグリパスの取り組みから

|ターン留学 にいがたったカレッジ

イナカレッジプログラム

イナカレッジラボ、はたらくくらすラボ

目的:都市部在住の地方に興味がある若者との関係性づく り。イナカレッジに参加してもらうきっかけづくり。

内容:地方で何かやりたいと考えている若者に対して、一 人ひとりの要望の応じたプログラムづくり・提供や、 これからの生き方に悩む若者の人生相談など。

お米レター【新潟市、村上市、出雲崎町、関川村】

目的:お米と手紙からはじまる地域と学生の関係性づくり 内容:県内一人蕃らし学生を対象に、農村地域から米と手紙 を発送し、受け取った学生から農家にお礼の手紙と料 理の写真を郵送。その後お礼・お手伝いツアーを実施。

おてつだいPLUS【新潟市、村上市、出雲崎町】

目的:県内に住む若者と地域・農家との関係性づくり。

内容:農作業の繁忙期、地域の共同作業やイベント等の単発 的なお手伝いに対して、お金ではないお駄賃を提供

ツアー型地域づくりプログラム【魚沼市、村上市、新潟市】

目的:地域に興味を持つ人を増やす。地域に共感して一緒 に汗を流してくれる担い手を育成する。

内容:都市部に暮らす人たちを対象に、地域の課題解決や 地域のプロジェクトに関わり、メンバーの一員と なって一緒に地域づくりを実践するプログラム。

地域実践型インターン【柏崎市・出雲崎町・関川村・村上市

目的: 学生の学び・成長×地域の課題解決等を図りつつ 地域に関わる担い手を育成

内容: 【期間】 1 か月/ 【プログラム】単なる労働力の提供ではなく、地域に応じたテーマを設定して活動する実践型農村インターンシップ。

【実績】 (H28) 9地域22名 (H29) 5地域15名 (H30) 8地域24名 (R1) 15名

地域型 1 年インターン (H24~29) 【中越地域】

中越の農山村の担い手確保・育成 【期間】1年間/【生活費補助】5万円/月/ 【主な対象】社会人(学生)/【ブログラム】地域 の仕事や暮らしを学び、自分にあったライフスタイ ルを見つける・創る・実現する。

アグリパス【小千谷市、柏崎市】

目的:新規就農・農業に関りを持つ担い手の育成。繁忙期

の農業者の人手不足解消。 内容: 【期間】1年間/【生活費補助】8.5万円/月/ 【プログラム】農家のお手伝いと集落の暮らしから はじまるライフスタイル型就農プログラム。

長期滞在型

地方に関わる

きっかけづくり

⁷日帰り・数日型

プログラム

通い型 プログラム

滞在型

プログラム

【目指すもの】

地域に共感して、一緒に汗を流して一緒に活動する"多様な担い手"を増やしたい。

一過疎化が進んでもその地域に関わる人や応援してくれる人(共感者)がいて、それによっ て地域の人たちが「まだまだ頑張れる」という前向きな気持ちで暮らし続けられる地域・ 人を残していきたい

一都市に暮らす若者等にとって、農村地域の人や暮らしに触れることで様々な価値観に出会 い、自分に合った"活き方"を見つけるきっかけを作りたい。





自治体サポート事業

移住プロモーション・ライフスタイルカフェ 【新潟県、新発田市、柏崎市】

目的:新潟に興味を持つ人を増やす。個人情報の取得。

内容:東京で"地方""新潟"を喚起するイベントや移住相談会 を開催。 (H30テーマ『ローカルとアート』『起業× 新潟』『地域旅×新潟』『ウィンタースポーツ×新 潟』『リモートアーク×新潟』『新潟×食と農』 『ローカル家計簿』)

地域おこし協力隊受入体制づくり・募集支援・コー ディネート【出雲崎町、新発田市、柏崎市、見附市、胎内市】

目的:地域にとっても協力隊にとってもwinwinな地域おこ し協力隊制度の運用。

内容:受入地域に対する協力隊の正しい理解、プログラム づくり、募集活動、導入後のフォローアップなど、 市町村単位の地域おこし協力隊に関わる総合的サ

移住者受入研修【県内18市町村】

目的:県内の移住者受入の機運づくり・体制づくり

□ へいいとしている。 一内容:地域住民等を対象に、移住者を受け入れるための具体的なノウハウなどを学ぶ研修会を実施。ワークショップを通じて、移住者受入を活発化していくための具体的なアイディア出しを行う。

地域サポート

中山間地域等直接支払い事務局【小千谷市】

- 目的:中山間地域等直接支払い制度の円滑な運用とこれを きっかけに中山間地域の農業の課題解決に向けた支
- 版。 内容: 広域協定事務局としての事務作業。試行加算事業等 を活用した担い手育成など。

地域の話し合い支援・ビジョン策定

【上越市・三条市・新発田市・妙高市】

目的:地域内での話し合いや合意形成・計画策定。

内容:地域住民へのヒアリングやワークショップ等を通じて、課題の整理、地域の目指す方向性、それらにもとづく具体的な活動展開などの話し合いや計画策定

道の駅・農産物直売所開業支援業務

【群馬県片品村・長野県栄村ほか】

内容:道の駅や農産物直売所の開業に向けた各種調査、ア ンケート、国等の公的資金活用の申請、基本構想・ 基本計画策定、開業に向けた農業者等の機運づく り・出荷者組織立ち上げ、店舗の運営等をサポート。

市民協働推進計画策定・条例【新発田市・長岡市】

目的:市民協働推進に向けた計画策定に関わる総合サポー

内容:市民アンケート、活動団体ヒアリング、委員会の運営、計画素案づくりなど。

復興地域づくり【糸魚川市】

|ターン留学

◇自分のお米を食べてもらえる

目的:糸魚川大火(2016.12発生)の復興地域づくりの推進。

内容:大火跡地の利活用と市民協働の仕組みづくり。復興 地域づくりに向けたワークショップや具体的な地域 活動・団体の立ち上げおよび活動の支援など。

にいがたしてカレッジ

1. にいがたイナカレッジの紹介

農家のお手伝い系プログラム(WorkRice)



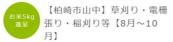
受入農家

Work Rice 事務局 🏽

|ターン留学

農家のお手伝い系プログラム(WorkRice)







お米5kg 地呈 り補佐等【7月~10月】



【柏崎市鵜川】電柵張り・草 刈り等【7月下旬~8月下 旬】



【満員御礼】農村の暮らしを 撮影いただける方募集(上越 市清里区)【募集終了】



(満員御礼】米袋のデザイン (上越市清里区)【募集終



【満員御礼・次回10月以降 開催予定】「米農家ライティング・トリップ」参加者募集 <お米5kg×6ヶ月進呈>

1. にいがたイナカレッジの紹介

|ターン留学

農家のお手伝い系プログラム(おてつだいPlus)※大学生对象





赤カブの収穫作業



空き家の掃除



蔵の掃除

|ターン留学

長期滞在型プログラム



1. にいがたイナカレッジの紹介

にしいがたとうけなしツラブ

最大2年間・14.4万円/月の支援金を支給

「田舎で米づくり」+「個人事業、テレワーク、就業等」ライフスタイルを支援します。

アグリパス農村暮らし支援事業は、農村での仕事と暮らしを学び、自分らしいライフスタイルの試行実践を 応援するものです。以下の3つの活動を行うことを条件に、最大2年間・14.4万円/月の支援金を支給します。 本事業は、米づくりをしながら暮らす「新たな生活モデル」を作ることが目的です。 農村暮らし希望者と 受け入れ集落の両者で、一緒に知恵を出し合って、新たな時代の農ある暮らしを作りたいと考えています。

①農村集落での暮らし (米づくり、自給的農業)

農村生活を体験するために、村の人たちと同じように自給的農業、集落活動への参加をします。自分が農村生活に合うか試してください。



②農家のお手伝い(体験)

農業手伝いは、基本的な農作業について学ぶことと人間関係づくりが目的です。将来的に農バイトで収入を得る、 自営農業で収入を得ることにもつながります。



1年目のみ必須

③農村定住計画の試行実践

自分が立てた構想・計画に基づいて、 農村で自分の目指す暮らしや仕事を試 行実践します。農業以外、収入を得る 仕事もOKです。





1年目インターン期間~2年目実践期間のイメージ

①農村定住計画の試行・実践 あなたが「農村暮らしでやってみたいこと」「生計を立てるためにチャレンジしたいこと」の構想を立てて実践してください。もちろん農業以外のこと、収入を得る活動もOK。

1年目

「農家のお手伝い」に重点を置きながら、自らの計画のための試行実践、環境づくりに取り組みます。



2年目

1年目の活動を踏まえて、再度計画を立て実践を行います。

②農家のお手伝い(体験)

受け入れ集落及び近隣の農家の元で米づくりをはじめとした農業のお手伝いをします。(月100~160時間程度)

希望すれば 農業バイト (有給)

1年目のお手伝い先農家で有給のアルバイトができます。

- 一収入の柱となる可能性があります。
- 一自ら農業で収入を得ていく足がかりにできます。

③農村集落での暮らし(米づくり、自給的農業)

- ・米づくりをはじめとした小さな農業を実践します。
- ・集落の会合、共同作業、行事に集落の一員として参加します。

1年目・インターン期間

活動支援金 14.4万円/月

2年目・実践期間

定住支援金 14.4万円/月

1. にいがたイナカレッジの紹介



滞在型プログラム(1か月地域インターン)



鮖谷集落インターン(2019関川村)



矢田集落インターン(2019柏崎市)



中継集落インターン(2019村上市)



川井地域インターン(2019小千谷市)

県・市町村等の委託業務



地域おこし協力隊研修



新潟県・市町村移住セミナー



関係人口プログラム(首都圏イベント)



道の駅開業支援、マーケティング等

1. にいがたイナカレッジの紹介

|ターン留学

インターンシップ参加者・受入地域

(2012年度~2019年度)

長期(1年)地域インターン 延べ35名(主に社会人)

短期(1か月)地域インターン延べ113名(主に大学生)

長期(半年)企業インターン 3名(学生)

受 入

延べ55地域・団体

定住した人

家族まで入れれば40人くらい

その後も地域に関わり続ける人 多数



|ターン留学 にいがたる。カレッジ

1か月夏休みインターン (大学4年次)

卒業後(2017年) 1年間のインターンに参加 \downarrow

そのまま定住

- ・米づくり
- •新聞配達
- ・かやぶき屋根の補修
- ・荻ノ島ふるさと村組合事務局長

1. にいがたイナカレッジの紹介

まとめ

|ターン留学 にいがたる。ナカレッジ

【目指すもの】

地域に共感して、一緒に汗を流して一緒に活動する、地域の"多様な担い手"を増やしたい。

【地域にとって】

過疎化が進んでもその地域に関わる人や応援する人(共感 者)がいて、それによって地域の人たちが「この地域は価値 あるものなんだ|「まだまだ頑張れる|という前向きな気持 ちで活動に取り組む地域・人を残していきたい。

【地域に関わる若者等にとって】

農村地域の人や暮らしに触れることで、様々な価値観 に出会い、自分に合った"活き方"を見つけるきっかけ を提供したい。

場所 場面 X

(地域に入っていくきっかけづくり) (関係性を育むきっかけづくり)

○お手伝い型プログラム

(半日~数日型) 地域の「ちょっと人手が欲しいな」 という時にお手伝いに行くという分 かりやすさ、受け入れ易さ

○地域づくり型プログラム

(週末通い型~1か月間) これから地域としてこんな取組を やっていきたいなに対して一緒に汗 をかいて実行。(課題解決なんてい う大それたものではない)

○学び(研修)型プログラム (1年間)

地域に"暮らしてみたい"若者を対象に、 地域の人たちが先生となり、農村で 暮らすための知恵や業を学ぶ研修プ ログラム。

直接的効果

「収穫作業を終えることができた」 「地域をPRする冊子ができた| など、プログラムを通してできる作業や成果物

副次的効果

「地域の雰囲気が明るくなった」 「地域の若者が活動に参加してくれるようになった」 など、よそ者が地域に入ったことでの様々な変化

コーディネーターの役割

◇プログラムの成果を導くためのコーディネート ◇関係性を育むためのコーディネート

関係性=地域への共感

≪人の魅力≫ ≪暮らしの魅力≫ ≪コミュニティの魅力≫

【関係を育むポイント】

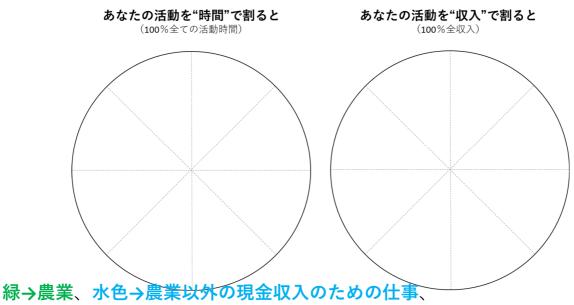
- ○一緒に過ごした時間×一緒にかいた 汗の量 (共通体験)
- ○顔と名前が一致する規模感
- ○1対大勢の受入体制(過疎なのに人 まみれ)
- ○関係性の深まりのプロセスを描く

存在承認の関係性

「○○さんに会いに行きたい」 「○○ちゃんが来てくれて嬉しい」 2017年の調査

あなたの活動について大体のつかみで教えてください。

- 農繁期など特別な月を除く、1ヶ月イメージしたときに、ぐらいでお答えください。
- 活動=収入のある仕事、収入にはならないけど好きでやっていること、ムラの活動、自分の農作業など



赤→自分のやりたい事・将来的に収入の柱にしたいことなど

2. 「しごと」づくりについて



時間の使い方

何を大事にするのか?自分の価値観

X

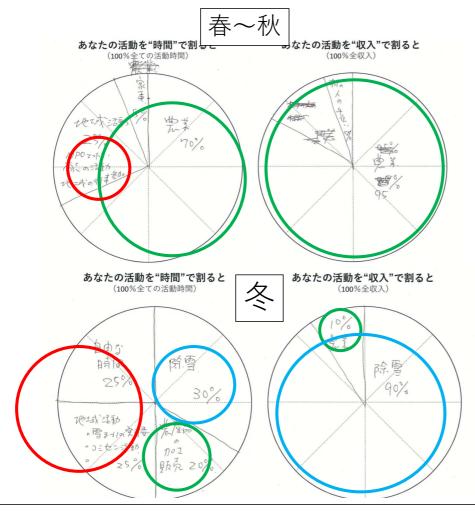
生計の立て方

どう稼ぐのか?

X

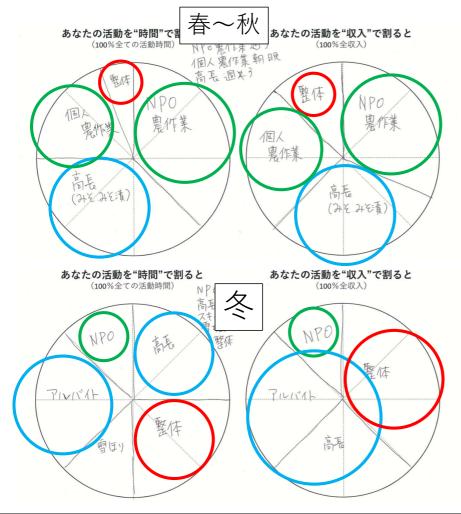
地域・社会との関係の仕方

どういう関係を築くのか?どう貢献するのか?



- ◆時間の使い方
- ・専業での農業(個人事業) 地域活動にも時間多め
- ・冬季間は自由時間、地域 活動に割く時間は半分
- ◆生計の立て方
- ・春~秋→農業
- · 冬→除雪
- ◆地域の関係
- ・近隣からIターン者
- ・地域農業の重要な担い手として期待されている。
- ・地域団体の中核メンバー
- ・移住者ネットワークの核

Mさん(男)整体師・農家 シェアハウス3人暮らし

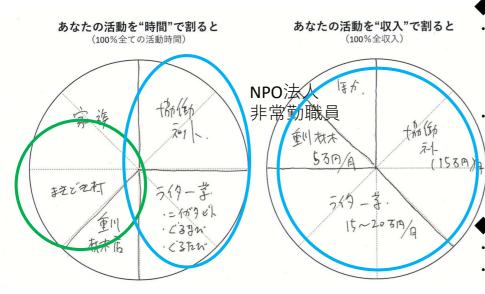


X(整体)+農業

- ◆時間の使い方
- ・農業(法人、個人) +バイト +個人事業(整体)
- ・バイト減らして個人事業を 増加できればという希望
- ・冬季間は農業が減る
- ◆生計の立て方
- ・上記とほぼ同じ
- ◆地域の関係
- ・ | ターン者
- 田んぼの重要な担い手として 期待されて、それに自身も 答えようとしている。
- ・法人の農業以外の事業にも 積極的に関与(ツーリズム 事業等)

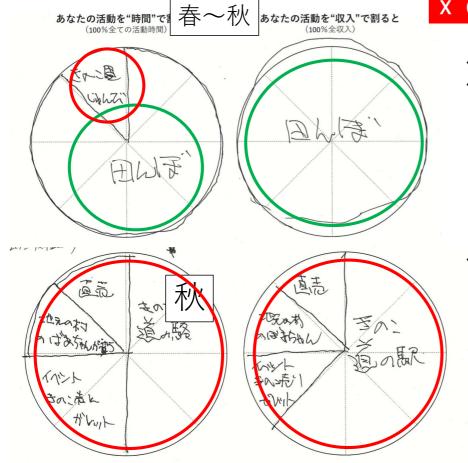
K さん (男) ライター 妻・子 1軒家賃貸

X (ライター、地域づくりコーディネーター業) +農業



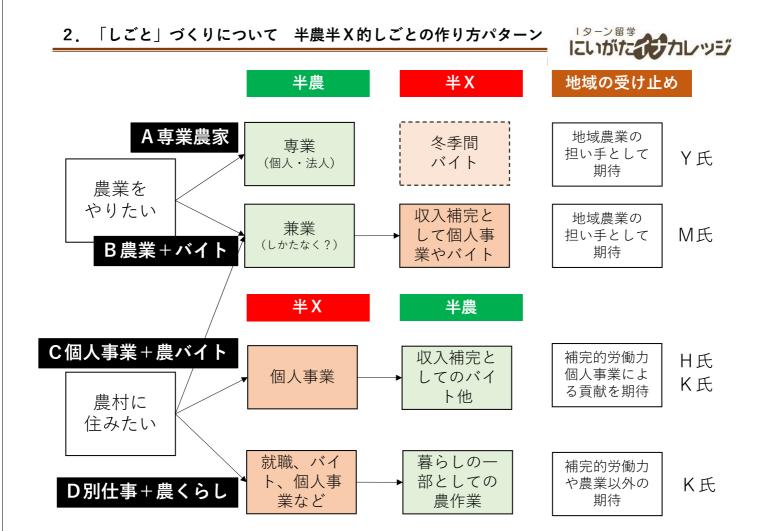
- ◆時間の使い方
- ◆生計の立て方
- ・現金収入のある仕事で 時間の半分ほど使い、 残り半分農業や地域 活動に使う。
- ・仕事はフリーランスで 〜 行っているため時間 それらの時間を作る事 が可能になっている。
- ◆地域の関係
- ・ | ターン者(大学から新潟)
- ・地域に以前から活動 (茅葺の庄屋宅の保全) の新しい担い手。
- ・地域交流の核となる役割を担っている。

Hさん(男) きのこ園経営 1人暮らし 1軒家賃貸



X(山菜・きのこ・狩猟)+農業

- ◆時間の使い方
- ◆生計の立て方
- ・山菜採取販売、きのこ園 運営、冬の狩猟に時間を 使いたい。
- ・田んぼは法人でのアルバイト 収入を得ることが目的
- ◆地域の関係
- ・ | ターン者
- ・かつて地域で運営していた きのこ園を継業。
- ・基本的には一匹狼気質。



2. 「しごと」づくりについて



A 専業農家 やることがはっきりしている(そして地域に一番求められている)

- ・技術や資源を揃えるために顔を売っていく必要がある。
- ・農業次世代投資資金を活用したいが、地域に適当な研修先が意外とない。

B農業+バイト 一番過酷?農業も中途半端、Xも中途半端になりがち。

- ・農業に軸を置きながら(まだ新米で)+Xを作ることは可能か???
- ・半×のバイトを農業バイトでという手か。

C個人事業+農バイト いわゆる農村起業的な生き方。まぁレアケース。

・経営資源をもたない | ターン者等にとっては継業が現実的ではある。

D別仕事+農くらし 一番気楽な農との関わり、集落の担い手として重要

・ I ターン者は仕事どうするかはある(こだわりがあると難しいかも) 地域づくり的な仕事にこだわりと詰みがち。

多様な担い手づくりのためにどんなプログラムが必要か?

- ・農業やりたい、農村住みたい=「専業農家なりたい」ではない
 - →農業農村を学びながら、選択肢を選べるようにしたい。 そのためのプログラムがないようだ(ホントかどうかは不明)
- ・すべてのベースになるのは「農村で暮らしたい」

さらに言えば「この地域に住みたい」という思い。それがなければ、B~Dの選択肢はない。

- →「集落で暮らす」「地域の人たちとの関係作り」ということを 最重要事項としたい。
- ・Xは地域に来て何ができるのかを模索するもの。

個人事業でも、バイトでも地域にどんなネタが落ちているのか、その出会 いがすべて。

→農業以外のことができる自由な時間を作りたい。

3. ライフスタイル型就農プログラム「アグリパス」



1年目参加者の進路

S氏 **A專業?**

専業農家志望し、東京に戻り再就職

- →将来的に専業農家になりたいという夢を確認できた。
- →必要な勉強・経験を積むために再就職の道を選んだ。

K氏 - C個人事業 +農バイト?

近隣集落へ移住

- →研修期間途中に、農業をやらないことを決めた。
- →インターネット関連の個人事業をしながら田舎暮らしを継続。
- →研修期間中に出会った同年代の友人がいる集落へ移住。

H氏 C個人事業? +農バイト

近隣集落へ移住

- →元々様々な地域で農業をしながら点々と暮らしていた。
- →もっと山奥に住みたいという意向で県内別地域へ移住。 農業バイト、自給自足的な暮らし。

M氏

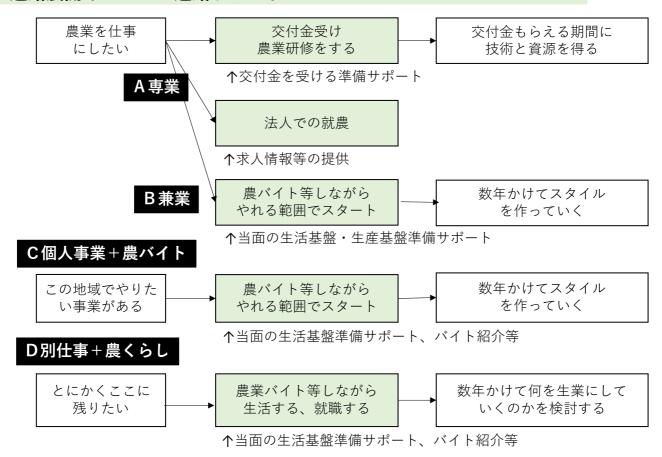
元の職業に戻った

- →人生でいつか農業をやってみたいと参加。
- →家庭の事情で研修期間中に帰郷。現在元職に復帰。

3. ライフスタイル型就農プログラム「アグリパス」



進路展開イメージ 進路サポート



3. ライフスタイル型就農プログラム「アグリパス」

まとめ

|ターン留学

- ・農業技術・経営を学ぶ場以外とない問題(農家と研修生のギャップ)
 - →地域に適当な研修先農家・法人がない(?)

農業指導できる人が意外といない(超基本的なところから伴走できる)。

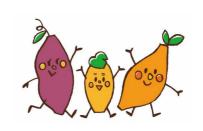
- →専業農家と半農半X(志望者?)の意識ギャップが大きい。
- ・自分のスタイルを築くまでの過ごし方問題 (研修生の農業・田舎暮らしギャップ)
 - →バイト生活を継続できる人は多くはない (?)
 - →地域おこし協力隊で、その運用の仕方次第で対応できる?
 - →研修生の農業に対する認識のギャップが大きい。 (農業への姿勢が・・・)
 - →そもそもXを収入源にまで育てられるのか?
- ・「仕事づくり」と「地域との関係」両立できるのか問題(地域と研修生のギャップ)
 - →地域の人たちは田んぼ継いで欲しい(農業やってほしい)願望 が結局一番強い。他のことをやることへの理解があやしい。
 - →研修生、地域の思いはズレているところからスタートしている前提 でそれをどう合わせていけるか。



農村の担い手は多業的な働き方は広がるのか? どんなサポートができるのか?



- ・結局は金。心豊かな貧乏は多くの場合継続しない。
- ・どんな形であれ個人事業主としてやれるだけの能力が必要。
 - ・誰でもができるできる働き方ではない。
 - ・農業を学ぶ場づくりはまだまだまだ改善の余地がある。
 - ・JA、普及センターとどう連携すればいいかわからない。
- ・(土木以外の)他産業との連携での所得確保はやってみたい。



「6次產業化事業者、

6次産業化プランナー

としての想い



農プロデュース 新谷梨恵子





自己紹介

東京都出身 15歳の時から「農家の嫁」を夢見る。 東京農業大学国際農業開発学科卒

「さつまいもで町おこしがしたい」

小千谷市に嫁ぐが「農家の嫁」になれず、農業法人に就農

10年間 農業法人専務取締役

さつまいもスィーツ商品開発!県内の学校給食へ

米、野菜の 生産・加工・営業・販売

平成27年独立•起業

(株)農プロデュース リッツ 「さつまいも農カフェきらら」



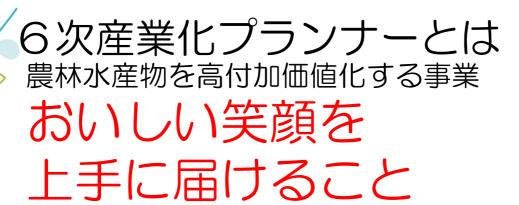




課題①

農家は「作るプロ」であって 「売るプロ」ではない。

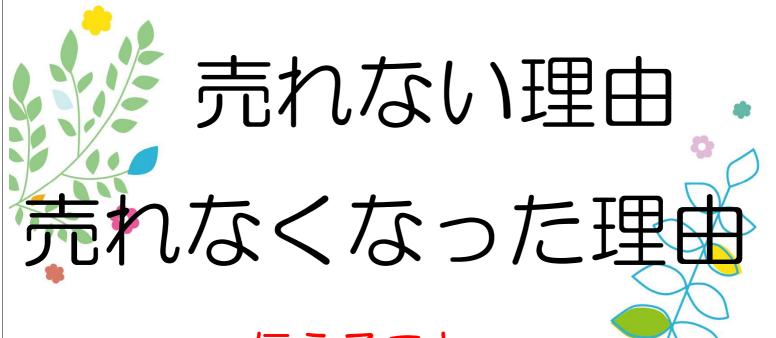
- 非農家出身で 農業法人就農した経験と 営業・販売経験が生かせないか?
- これからの農業界で 求められているものは 「農業をプロデュースすること」





- 農産物加工品の新商品開発
- 商品に応じたマーケティング
- ・6次産業化プロデュース





伝えること 伝え続けることが大事 だから声に出そう。 **つまいも農力フェきらら」の想い ~人と農が輝く場所に~





課題②

- 飲食店としては障がいがある方の 出来る仕事が限られる。
- そのままでは売れない規格外野菜が多く存在する。
- ・学校給食で県内産の枝豆剥き身の 需要があるが、供給量が足りない。



課題解決のために

枝豆剥き身にしたり、カットペーストにして 冷凍保存したらどうだろう?

需要

「



障がいのある人でも 育児中でも働ける場を! 可能性 **増**

使われていない 加工場発見!



きららベジファクトリー

- が障がいのある人でも働きやすい 野菜加工場を作る!
- ②育児中ママの仕事場作り!
- ③廃棄される農産物に高付加価値化!







①令和元年より一般就労決定





次世代へ種を蒔く

事業者として プランナーとして大切にしていること

自身の経験を生かし、支援する方に 寄り添ったアドバイスを心がける。 地域に「仕事、働きやすい職場」を作ることで お世話になった小千谷の方に 恩返しできるような さつまいも人生にしたい。